

群 教 ゼ	F09 - 01
	平 16.224集

互いを尊重し、支え合う学級風土作り

- 学級に、生徒の実態や振り返りをいかした
ピア・サポート活動を取り入れて -

特別研修員 金澤 美由紀 (前橋市立第三中学校)

《研究の概要》

本研究は、不登校の予防に向けて、学校での集団生活の母体となる学級が、互いを尊重し、支え合う集団になることを目指して、中学1年の学級全体を対象とし、ピア・サポート活動を取り入れ、生徒の実態や振り返りをもとに、トレーニング、サポートの実践を行ったものである。その結果、相手を尊重したコミュニケーションをとり、他へはたらきかけようとする生徒が増え、学級に、生徒同士で支え合う雰囲気が広がっていった。

【キーワード：教育相談 ピア・サポート活動 学級風土 不登校の予防】

課題

学級の実態 (中学1年33人)

- 「ソーシャルスキル尺度調査」「観察による生徒の様子」「学級の雰囲気調査」より
- ・「配慮、かかわりのスキル」とともに平均値である。・友達やクラスのために、自分からはたらきかける面が弱い。
 - ・まじめに諸種加に取り組む。・ルールを守ろう、協力しようとする姿勢をもつ。
 - ・友達とうまくかかわれない生徒がいる。・女子グループ同士の関係が希薄である。・他を傷つける言動が見られる。
 - ・学級の雰囲気の「学級の公平」「思いやり支持」「学級の自由」が低い。

学級担任の課題【生徒同士の望ましい人間関係作り 互いを尊重し、支え合う学級風土作り】

- ・互いを尊重するコミュニケーションのスキルを学ぶ場を意図的に設定すること
- ・生徒同士のプラスのはたらきかけを促進するかかわり
- ・生徒同士が知り合い、認め合う場を設定すること

目指す学級と生徒像

【互いを尊重し、支え合う学級】

- ・互いのよさを認め、互いを尊重したコミュニケーションがとれる生徒
- ・友達やクラスのために、自らはたらきかける生徒

課題解決の方法

1 目標

学級に、ピア・サポート活動を取り入れ、生徒の実態や振り返りをいかしながら、基礎的なコミュニケーションの技能についてのトレーニングと、サポートを実践することにより、互いを尊重し、支え合う学級集団の育成を図る。

2 なぜピア・サポートか

(1) ピア・サポートとは

ロールプレイングやゲームなどを通して、対人関係の基礎的な技能を段階的に訓練し、それを発揮できる活動の機会を準備し、最終的には生徒同士のかかわりあいのなかで支え合い、育ち合えることをめざすものである。

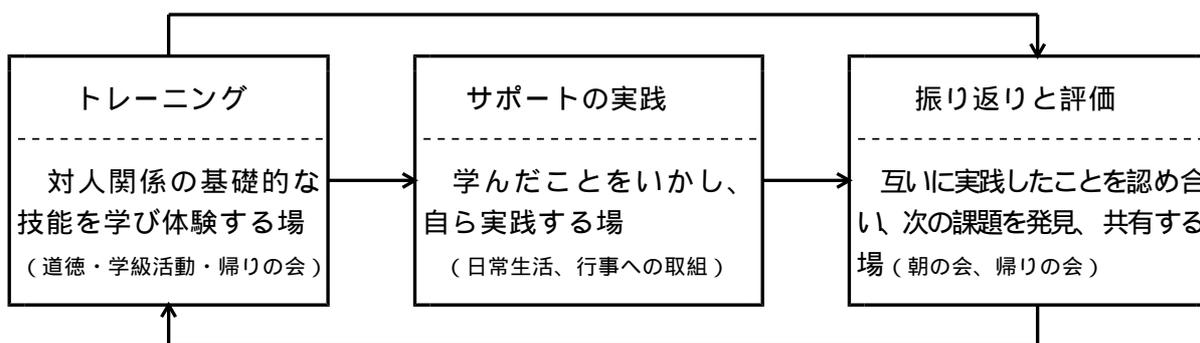
(2) 期待される効果

- ・トレーニングによる対人関係の基礎的な技能の訓練により、互いを尊重したコミュニケーションの在り方を学ぶことができる。
- ・トレーニングでの擬似的体験やサポートの実践を通して、友達とかかわることの喜びや、互いのよさを感じることができる。
- ・トレーニングやサポートの実践を通して、よいモデルにふれたり、それをまねたりすることで、プラスのはたらきかけの行動が広がり、学級の雰囲気向上につながる。

(3) 発達段階において

生徒は、中学生のこの時期、思春期を迎え、精神的に親から自立し、仲間との強い結びつきを求めるようになる。仲間からの承認や支えが大きな力となる時期である。

3 ピア・サポート活動の流れ



4 トレーニングの内容を選定、計画、実施する上での留意点

- ・生徒の援助体験、援助活動のニーズをもとに、それらをトレーニングで練習し、模擬体験することにより、その行動を強化したり援助の幅(対象、質、量)を広げられるようにする。
- ・トレーニングやサポートの実践についての生徒の振り返り、教師の観察による評価によって、活動を補充、深化するようなトレーニングへとつなげていく。
- ・学校行事(合唱コンクール、人権週間)との関連を図る。
- ・活動の中で、配慮のスキルを意識しながら、なるべく多くの友達と交流したり、互いのよさを認め、伝え合ったりする場を設定する。

実践

1 生徒の援助体験、援助活動のニーズの把握

事前のアンケートによると、多くの生徒が、「話を聞いてもらう」「声をかけてもらう」「誘われる」「手伝ってもらう」「励ましてもらう」「相談にのってもらう」など、何らかの援助を受けた経験を持っている。しかし、援助を受けた内容や相手は限られていたり、特に思い浮かばなかったりする生徒もいた。

これからの学校生活で仲間にしてもらえたらうれしいこととしては、「話を聞いてもらう」

「一緒に話す」「一人でいるときに声をかけられる、誘われる」「困っているときに助けてもらう」「相談にのってもらおう」「わからないことを教えてもらう」が出された。

2 トレーニングの内容の選定

生徒の援助活動のニーズや学級の実態から、「話を聴く」「声をかける」「困っているときに援助する」「相談にのる」ためのトレーニングを取り上げ、配慮のスキルを意識しながらも、自分からはたらきかける内容を多く取り上げるようにした。

3 ピア・サポート活動の実践

活動の流れに沿って、トレーニングやサポートの実践についての振り返りと評価をもとに、現時点での課題を見つけ、次のトレーニングを設定していき、以下の通り実践した。

導入に当たっては、生徒の援助体験を思い起こすことでサポートのイメージを持たせ、クラスをよくするための活動であることを伝えた。はじめに、生徒が期待する援助活動の「一緒に話す」に向けて、多くの友達と会話をし、交流していく上での基礎となる、話を聴く態度についてのトレーニングを行った。

トレーニング 1 『積極的な話の聴き方』～期待される援助活動：話を聴く 学活 9/14

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
・「かかわりの少ない」「えらそうな」「かかわりのある」3通りの聴き方を2人組でロールプレイし、体験した。	・聞き手の態度が話し手にどう影響を及ぼすかを体験を通して考えさせた。 ・「かかわりのある聴き方」を継続して実践する場を、帰りの会に設定した。	・聞いているときの態度に気をつけると、相手が話しやすくなると気がついた。 ・ふだんあまり意識していなかった。 ・自分も態度に気をつけたい。



サポートの実践 帰りの会での2人組で話を聴き合う活動)の振り返り

はじめは照れくさかったけど、自然と相手が見られるようになってきて楽しかった。
相手の人が興味ありそうに聞いてくれた。前より話しやすくなった。
あまり話すことがなかったので、話が続かなかった。(課題)
相手が話につまったとき、「何でもいいよ」と言ってあげた。 / 質問をすると話が盛り上がった。



振り返りと評価

トレーニングでの「かかわりのある聴き方」を意識して、話を聴き合う活動を継続して行うことで、柔らかな表情で、顔を合わせて話を続けられる生徒が増えてきた。また、係の連絡や日直の話などを聞く場面でも、はやく集中して聞くようになってきた。

課題の、話が續かない場合については、の工夫した例をあげ、相手が話しやすい声かけ、開かれた質問、焦らず相手の言葉を待つこと、の方法があることを伝え、練習を行った。



この後、軽はずみに相手の悪口を言ってしまう実態(課題)が見られたので、自分から他へはたらきかけるためのトレーニングの前段階として、言葉の影響力の大きさに気づき、相手の気持ちを考えた言動ができるように、次のトレーニングを設定した。

トレーニング 2 (1) 『ふわふわ言葉・ちくちく言葉』 道徳 9/28

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
・自分が言われて傷ついた言葉、うれしかった言葉をグループでブレンストーミングして出し合	・自分が言葉を受けたときだけでなく、発したときや、まわりで聞いていたときの気持ちにも目を向ける問いかけを	・言葉の力はすごい。 ・「ちくちく言葉」は言ってから不安になる。 ・「ふわふわ言葉」は照れるけどすっきりする。

い、それぞれを互いに言い合い、そのときの気持ちを発表し合った。	し、言葉のもつ影響力について考えさせた。	・自分でも「ちくちく言葉」を言うときがあるのでやめようと思う。 ・「ちくちく言葉」を言っている人は注意したい
---------------------------------	----------------------	---

振り返りと評価

それぞれの言葉が、聞いたり言ったりした人の気持ちにどんな影響を及ぼすかに気づく反応が多かった。また、日頃の自分の言動を見つめ直す振り返りもみられた。「ふわふわ言葉」としてあげられたものは「ありがとう」「すごい」などのちょっとした一言が多く、「かっこいい」など、表面的でお世辞のようなものもあった。(課題)。そこで、「ふわふわ言葉」の内容をふくらませたり、深めたりして、相手を大切にしたい声かけを積極的にできるように次のトレーニングを設定した。

トレーニング 2 (2) 『プラスのストロークを贈ろう』 学活 10/5

～期待される援助活動：声をかける（あいさつ、励まし、ほめ言葉、誘い）

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
<p>・プラスのストロークが仲間を元気づけることを知り、2人組でプラスのストロークを贈り合う体験をした。</p> <p>(具体的な内容) よいところ、得意なこと、がんばっていること、感謝したいこと、励ましたいこと、心配していること</p>	<p>・活動の前に、グループで、「～の好きなさんへ」と声をかけながらぬいぐるみをパスする活動をして緊張を解いた。</p> <p>・プラスのストロークの具体的な内容を示すことで、どんなことを伝えればよいかわかるようにした。</p> <p>・2重の円で1人ずつずれながら2人組を作ることで、時間内に多くの友達と交流できるようにした。</p>	<p><u>もらったとき</u></p> <p>・<u>恥ずかしかったけどうれしかった。</u> <u>照れてしまってお礼が言えなかった。</u> <u>否定してしまった</u></p> <p><u>贈ったとき</u></p> <p>・<u>相手喜んでくれて自分も気持ちよかった</u> <u>相手のことをよく知らないしほめにくい。</u> <u>一人一人のよいところをもっとたくさん見つけたい。</u> <u>みんなとの交流をもっと深めたい。</u></p>

サポートの実践 (日常生活)の振り返り

色々してみた。体調が悪そうな人に声をかけた。この前の授業から少しずつ変わったなあと思う。得意なことをしているとき、「上手だね」と言った。否定されないで「ありがとう」と言ってくれたので、うれしかった。一人でいた子に声をかけた。
声をかけたとき、相手の反応は関係ないような感じでいやだった。

振り返りと評価

日常生活で「どうしたの?」「だいじょうぶだよ」など、何気ない一言をかける場面が増えてきた。トレーニングでは、声をかける方に重点をおいたが、実践や振り返りにより、発信する側だけでなく、受け手がどう反応するかが大切であることが見えてきた。さらに、友達のよいところを意図的に見つけ、認め合う場の設定が必要だと考えた。そこで、課題を改善するため、合唱コンクールに向けての取組の中で、友達のがんばりやよいところを見つけ、合唱コンクール後に、受けるときの態度に焦点を当てて、ストロークを贈り合うトレーニングを実施した。

トレーニング 2 (3) 『プラスのストロークを贈ろう-2』

～期待される援助活動：声をかける（励まし、ほめ言葉、感謝） 学活 11/9

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
<p>・前回のトレーニングや実践を振り返り、ストロークをもらうときの態度について考えた。</p>	<p>・ストロークを贈り合う前に、「気持ちよくメッセージを受け取るには?」と投げかけ、受け手の態度を意識して活動できるようにした。</p>	<p><u>「気持ちよくメッセージを受け取るには?」</u></p> <p>・<u>相手の方を向く</u> ・<u>相手の話をしっかり聞く</u> ・<u>ありがとうという気持ちで聞く</u> ・<u>お礼を言う</u></p> <p><u>振り返り</u></p> <p>・<u>今回は否定せず、素直に「ありがとう」と言えた。</u></p>

・メッセージカードをもとに、合唱コンクールに向けての取組の中で発見した互いのよさについて伝え合った。	・クラスの一人一人へのメッセージをあらかじめ書いておくことで、伝える内容をしっかり持てるようにした。	・今回がんばったことをほめてもらったのでとてもうれしかった。 ・相手が恥ずかしそうにしている様子も、自分と同じ気持ちだと思って、前より楽に贈れるようになった。
--	--	--



振り返りと評価

合唱コンクールに向けてがんばったことや発見したよさなど、具体的なことをほめられることで、受け手のうれしさが増した。また、受け手がしっかりメッセージを受け取ることで、贈り手もよい気持ちになることを実感できた。さらに、受け手の反応が期待通りでなくても、前回の自分の体験から、受け手の照れる気持ちを想像して、寛容な気持ちでメッセージが贈れたという振り返りも見られた。
次に、行動を伴ったサポートに向けてのトレーニングを設定した。



トレーニング3 『困っている友達を支えよう』～期待される援助活動：寄り添って援助する 学活 11/11

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで、1人が16枚の状況カードから1枚引き、残りの3人はそのカードを見て、何をしたらよいか考え、すばやく行動をとった。 ・カードを引いた人は、3人それぞれの行動に応じて、「気持ちカード」(「行動をありがとう」「言葉をありがとう」もっと態度で示そうよ)を渡した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主種加前に「あいじゃんけん」「ミラーゲーム」を行い、緊張をほぐした。 ・状況カードの内容は、クラスでよく起こりそうな状況で、周りが行動を取りやすいものにした ・自分で考えすぐに行動すること、やってもらったことが期待通りでなくとも、すぐに行動してくれた友達に対してとりあえずお礼を言うことを確認した。 	<p><u>種加の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が進行しなくても、各班が自分たちのペースで、ジェスチャーを入れながら、和やかに活動を進めていた。 <p><u>振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしたことを喜んでもらえてよかった ・想像だけだったけど気づってくれるのはうれしいし、<u>実際にできるかな?</u> (普段の生活で実行するのは?) ・見て見ぬ振りをしていないで行動を起こす ・<u>周りの状況に目をやる</u> ・<u>自分で気づいて困っている人を見つける</u> ・特定の人だけでなく、いろんな人を見る ・<u>ときには自分から助けを求めることも必要</u>



サポートの実践

(日常生活)の振り返り～自分がされてうれしかったこと、自分がしたこと

「一緒に行こう」と誘ってくれた。自分が一人だったとき、ある子が近づいてきて、話し相手になってくれた。
「だいじょうぶ?」と心配してくれた。重い荷物で大変だったとき手伝ってもらった。
教科書を忘れたとき、一緒に借りに行ってくれた。休んだときに宿題の内容を教えてもらった。 など
自分がしたこととしては、上記に加え、数学のわからない問題を教えてあげた。相談にのった。



振り返りと評価

トレーニングでは、グループで支え合う活動を模擬体験する中で、支えられたり、支えて感謝されたりすることの心地よさを味わえた。また、それぞれの状況でどんな対応ができるかについて、友達のよいモデルを見ることもできた。
サポートの実践では、自分がされたことを逆に自分がしてあげた例や、実際に状況カードにあったような場面でサポートをした例も多かった。しかし、カードとまったく同じ状況でも、だれにも気づかれないために、サポートを得られないような場面もあった(課題)。周りを見て気づくことの大切さや、自分から助けを求める必要性にふれる振り返りもあったので、友達の表情をよく見て気づくことや、自分で状況を伝えることにポイントを置いて、次のトレーニングを行った。



トレーニング4 『困っている友達に気づいて支えよう』

～期待される援助活動：気づいて声をかける / 寄り添って援助する 学活 11/17

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
<p>・4人グループで、順番に「感青カード」を引き、その感青を表青や動作で表現し、その様子から「さん、おこってる? / 悲しい? / うれしい? / 具合が悪い? / 何か心配?」と声をかけ合った。</p> <p>・トランプの絵札を引いた人が困った人になるという設定で、まず、困っている人を当ててから、前トレーニングと同じ活動を行った。</p>	<p>・困っている人に気づくにはどうしたらよいかと投げかけ、その一つ的手段として相手の表情をよく見ることを思い起こさせた。</p> <p>・困っている人に気づいたら「どうしたの?」もしはすれても「何でもないよ、ありがとう」と声のかけ方を確認し、互いを尊重する応答ができるようにした。</p> <p>・今回は、困っている役の生徒には、カードを見せるのではなく、状況を口で伝えさせることで、困ったときの助けの求め方を意識して練習させた。</p>	<p><u>活動の様子</u></p> <p>・演技にとまどいを見せる生徒もいたが、表情やしぐさを入れて演技をしたり、少しの変化から感情を当てようとしたりする姿が見られた。</p> <p><u>振り返り</u></p> <p>・困っていて助けてほしいとき、気づいてもらえることがどれだけ支えになるかわかった。</p> <p>・何でもなくても「どうしたの?」と声をかけるのは大切なことなんじゃないかな。</p> <p>～<u>周りに心配をかけまいとわざと出さな人もいる</u> (の生活で実行するには?)</p> <p>・もっと周りに目を向けるべき・落ち着いて見る。</p> <p>・相手の表情、行動、いつもと違う様子を見る。</p> <p>～<u>助けを待っているだけでなく自分から助けを求める</u>～</p>

振り返りと評価

グループの中で困っている人を見つけ、声をかけたり助け合ったりする体験を通して、困っている状況に気づいてもらうことのよさや、日頃から相手の表情や行動を見たり、落ち着いて周りを見たりすることの大切さへの気づきが多く見られた。さらに、自分から助けを求める必要性や、自分で解決しようとする人の存在への気づきも見られた。

そこで、サポートの内容をさらに深め、助けを求められたときに、相談にのり、その人の問題解決を支えるための活動に向けてのトレーニングを行った。

トレーニング5 (1) 『相談にのる～解決策を一緒に考えよう』

～期待される援助活動：話を聞く、一緒に考える 学活 11/24

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
<p>一人の相談を全員で聞き、グループで以下の手順で解決策を考えた。</p> <p><u>1 問題を理解する(クラス全員)</u></p> <p>質問をしながら何が問題か、どうなると解決か、相談者の思いを理解する。</p> <p><u>2 解決策を考える(グループ)</u></p> <p>・解決策を出し合う。</p> <p>・解決策を分類し、それぞれの利点と心配な点について考える。</p> <p>・解決策ベスト3を決定する。</p> <p>・自分ならどれを選ぶかを考える。</p>	<p>・教師が悩みを相談にきた中学生の役になり、教師の中学時代の経験をもとに、悩み事を話した。</p> <p>・悩みを打ち明け人の気持ちを想像させ、真剣に活動できるようにした。</p> <p>・各自が考えた解決策をカードに記入し、出し合うことで、各自の考えをグループに出しやすかった。</p> <p>・一緒に考え、吟味した後で最終的に解決策を選ぶのは、悩んでいる人自身であることを伝えた。</p>	<p><u>活動の様子</u></p> <p>・解決に向けて、真剣に質問をしたり、解決策を考えたりにしていた。</p> <p>・解決策を分類し、選ぶまでに時間がかかった。</p> <p><u>振り返り</u></p> <p>・グループになったら、自分一人では思いつかない考えがいっぱい出てきた。</p> <p>・もし悩みができたなら、友達などに相談してみるのがいい。</p> <p>・相談にくる人がいたら真剣に話を聞きたい。</p> <p>・もし、いい解決策が見つからなくても、一生懸命考えた分だけその子と仲良くなれそう。</p> <p>～<u>解決策を考えるのが難しかった。</u>～</p> <p>～<u>相談も楽しじゃない</u>～</p>

振り返りと評価

一つの悩み事の解決策を全員で考えて、それぞれの考えを出し合う活動を通して、意見の多様性や友達の考えのよさに気づいたり、相談をすることの意義を感じたりすることができた。同時に、相談にのることの大変さや、解決策を考えることの難しさを感じる生徒もいた(課題)ので、「聞いてもらい、一緒に解決策を考えてもらうだけで気が楽になる」という振り返りを紹介した。

さらに、相談の意義を感じたり、問題解決に向けての手順を練習したりするために、次のトレーニングを行った。

12/1

トレーニング 5 (2) 『相談にのる～紙上相談』～期待される援助活動：話を聞く、一緒に考える 学活

主な内容	留意点	生徒の反応・振り返り
1 各自が最近気になっていることを「悩み事リスト」に書き出した。 2 リストの中から、相談した悩み事の一つを選び、ワークシートに記入した。 ・悩み事 ・どうなりたいと思っているか 3 グループで、悩み事についての質問と答え、解決策をワークシートに書き合った。 4 解決策を決定した。	・無理をせずに、グループに出せる悩み事を選べばよいことを伝えた。 ・悩み事を真剣に受け止めること、相談内容はグループの中だけにとどめておくことを確認した。	活動の様子 ・友人関係、自分の性格、くせ、勉強、部活動、家庭生活などについての悩み事が出された。 ・どのグループでも、前に書いた人の考えをまねずに、自分らしき解決策を出していた。 振り返り ・すっきりした ・聞いてもらえただけで気が楽になった。 ・みんな真剣に考えてくれてうれしかった。 ・みんなも悩みがあって同じだな。助け合いたい ・紙の上だったので言いやすかった。 ・思い切って相談してみたけど、自分では考えられないことを他の人から教えてもらってよかった。

振り返りと評価

今回は、自分の悩み事を相談し、グループで解決策を考える体験を通して、相談にのってもらった立場から、多様な解決策があることへの気づきや、悩み事を聞いてもらったり、一緒に考えてもらったりすることの気持ちよさについての振り返りが多く見られた。解決策を考える難しさよりも、自分から相談をする良さを強く感じられたようだ。

次に、校内人権週間で、自分や周りの人を大切にすることをさらに意識して、これまでのトレーニングやサポートの実践を振り返り、サポートの個人計画を立て実践を記録していった。

サポートの実践 (校内人権週間での取組) 『サポートの計画を立て、実践しよう』 12/6 ~ 10

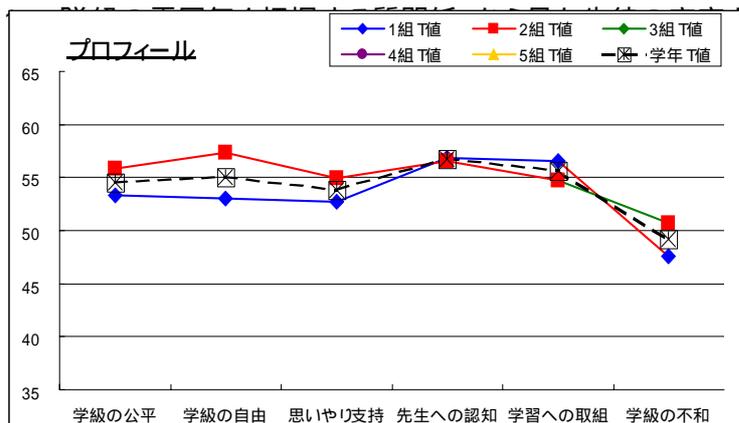
活動の流れ	留意点	実践内容・感じたこと
1 これまでのピア・サポート活動を思い出し、サポートの個人計画を立てた。 2 実践記録をとっていった。 ・実践したこと、してもらったこと ・感じたこと ・実践上困っていること 3 互いにしてもらってうれしかったことを伝え合った。	・サポートの内容や対象を広げる投げかけを行った。 「もっとできそうなことを探してみよう」 『仲良しの人』から『クラスの雑でも』へ ・計画は、意識をするためにたてるので、状況に応じて実践は変わってもよいことを伝えた。 ・毎日の実践記録に、実践を認めたり、アドバイスをしたりする教師のコメントをそえた。 ・人権週間の後、互いの実践を認め合う場を設定した。	実践したサポート ・あいさつ ・「ちくちく言葉」を言わない ・話を聴く ・相談にのる ・勉強を教える ・「一緒に行こう」「なにょうぶ？」などの声かけ ・一人でいる子への声かけと会話 ・ものの貸し借り、拾う、手伝う、掃除の協力 感じたこと ・小さなことでも喜んでもらえてうれしかった。 ・周りを見ると気づくことがたくさんある。 ・人に助けってもらった代わりに他の人を助けられてよかった。 ・難しそうだったけど慣れると簡単だった。 ・これからも続けていきたい。

振り返りと評価



実践記録を見ると、サポートをしたりされたりしたときの心地よさから、自分がしてもらったことを友達に返したり、自分がしたこと自信を持ってサポートを続けたりしていく様子うかがえた。「サポートする機会がない」という生徒は、あいさつや「ちくちく言葉」を使わないこともサポートになることをアドバイスされることで、少しずつ実践を始めていった。さらに、繰り返しサポートしたり、周りの友達が実践する姿を見ることで、恥ずかしがらずに自然にできるようになったり、対象となる相手の幅を広げていこうとしたりするコメントも見られた。まだ実践が少ない生徒には、今後、実践を促す声かけよりも、サポートされる体験を意図的に増やすなどの配慮が有効だと考える。

学級、生徒の変容と考察



考察

5月に比べ、「学級の公平」「学級の自由」「思いやり支持」に向上が見られた。その中の質問項目では、「努力」「新しいことに挑戦すること」が認められることや、「何でも話せる雰囲気」「自分たちで決めて実行」「友達同士で相談」することが特に向上し、他の質問項目も少しずつ向上が見られた。

図1 学級のプロフィールの変化 青 5月 赤 12月

トレーニングにおいて聞く態度を学んだ上で、互いのよさやがんばりを認め合う場や、多くの友達と交流する場を設定したことで、自分の気持ちや考えを出そうとする生徒も増え、「学級の自由」「学級の公平」の向上につながったと考える。また、サポートの実践により、思いやりや支持的風土を感じる生徒が増えつつあると考える。

しかし、年度始めの5月に比べ、互いのかかわりが増えるにつれて「学級の不和」を感じる生徒がやや増えてきている。今後さらに、「友達の失敗を笑わない」などの相手の気持ちへの配慮に重点を置いた指導と、仲良しグループを越えた関係作りを継続して行っていく必要がある。

2 学級生活で必要とされるソーシャル・スキル尺度」による生徒の自己評価の変容と考察

対人関係の基礎的な技能に関する生徒の実態と変容を知るために、対人関係を営む技術であるソーシャル・スキルの尺度による調査を実施した。「配慮のスキル」は、対人関係のマナーで、互いを尊重した行動の技術であり、「かかわりのスキル」は、他と能動的にかかわるのに必要な技術である。

スキルの学級平均値では、以下の通り、「配慮のスキル」「かかわりのスキル」、ともに上昇し、「平均的」なレベルだったものから「良好」のレベルに達していた。

・ 配慮のスキル学級平均	48.1 (9/8実施)	49.9 (12/16実施)	平均的数値43～48
・ かかわりのスキル学級平均	44.1 (9/8実施)	47.0 (12/16実施)	平均的数値39～46

項目別に見ると、他へはたらきかける内容の項目の数値が向上していた。特に、「自分がしてもらいたいことを友達にしてあげていますか」では、33人中29人が、「友達のまじめな話はひやかさないで聞いていますか」では全ての生徒が、「ときどき/いつもしている」と答えていた。

生徒個人で見ると、特に、平均より「やや低い」「かなり低い」数値の生徒が、「平均的」「良

好」の範囲まで数値をあげていた。

資料 1 質問項目のうち、特に大きな向上が見られた項目(数字は平均値)

「1：ほとんどしない 2：あまりしない 3：ときどきしている 4：いつもしている」

質問項目		9月	2月
配慮の スキル	友達のまじめな話はひやかさないで聞いていますか	3.36	3.77
	自分がしてもらいたいことを、友達にさせてあげていますか	2.82	3.23
	自分の係の仕事は最後までやりとげていますか	3.50	3.87
かかわり の スキル	みんなのためになることは、自分で見つけて実行していますか	2.57	2.90
	友達の中心になって、アイデアを出していますか	2.75	3.13
	自分だけ意見が違っても、自分の意見を言っていますか	2.68	2.95
	初めて会った人でも話をしていますか	2.96	3.30
	うれしいときは、笑顔や身振りで気持ちを表しますか	3.32	3.67

ピア・サポートのトレーニングで、配慮のスキルを意識しながら、他へはたらきかける内容を多く取り上げたことにより、友達同士で声をかけたり、援助をしたり、解決策をともに考えたりする中で、生徒は、心地よさを味わったり、仲間のよい

モデルに触れたりすることができた。その体験を通して、日常生活において、周りに目を向け進んで他へはたらきかけようとする意識が高まってきたと考えられる。また、トレーニングや2人組での会話の継続的な実施により、話を真剣に聞こうとする姿勢が身に付いてきたと考えられる。

3 ピア・サポート活動に関する生徒の記述と教師の観察から見た変容と考察

(1) ピア・サポート活動に関する生徒の記述

ピア・サポートを始める前と後で		まとめの感想より
自分が変わったところ	周りの友達が変わったところ	<p>・「頭ではわかっていることでも、本当にはやってなかったことを、きちんとできるようにになった。みんなもしているので恥ずかしくない。」</p> <p>・「学習や実践をしているとき、“この人やだ”という気持ちが誰にもなくて、みんなが同じように見えた。」</p> <p>・「相手がうれしそうなる表情をみると、私もうれしくなるから、もっといろいろな人にいろいろなサポートをしようと思えた。だから、だんだんとはずかしい気持ちもなくなって、サポートしやすくなった。今は意識しているけど、自然にできるようになりたい。」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・話をちゃんと聞くようになった。 ・悪口を言わなくなった。 ・相手の気持ちを考えるようになった。 ・あいさつを多くするようになった。 ・いろいろな人に目を向けるようになった。 ・いろいろな人と話せるようになった。 ・前より自然にほめたり励ましたりできるようになった。 ・困っている人を進んで助けるようになった。 ・身の回りを意識している。 ・相談ののりかた。 ・人に対する考え方。 ・特にない(1人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちくちく言葉」悪口が減った。 ・やさしくなった。明るくなった。 ・話を聞いてくれる。 ・たくさん話すようになった。 ・話しかけてくれる友達がなくなった。 ・「ごめん」「ありがとう」と言う人が多くなった ・みんな周りを意識して行動している。 ・困っていると声をかけたり、手伝ってくれる人が多くなった。 ・言葉に気持ちがこもって聞こえるようになった。 ・みんなが自分の意見を持つようになった。 ・あまり変わらない(2人) ・わからない(1人) 	

生徒の記述から、日常生活でも、相手を尊重したコミュニケーションがとれたり、周りに気を配り、声かけや援助など、自分から友達にはたらきかけたりするようになった生徒が増えてきていることがわかる。これは、トレーニングやサポートの実践の振り返りによって、自己のコミュニケーションの在り方を見つめ直したことや、学級全体でサポートの実践に取り組んだことで、周りのよいモデルに触れたことが有効にはたらいのためと考える。さらに、自分

や周りの友達に変化を認められなかった生徒には、意図的にサポートされる体験を増やしていくなどの配慮が必要であると考え。

(2) 教師の観察から見た変容

- ・目的に応じて、多様な2人組やグループを作り、協力して活動できるようになった。
- ・係や日直の話を聞く態勢をとるのが早くなった。
- ・日常生活で互いにあいさつや声をかけ合う場面が増えてきた。
- ・学級委員がクラスとしてよくできたことに目を向け、クラスに伝える場面があった。
- ・集会の整列や話合いの時に、学級委員に協力して、互いに注意し合う場面が見られた。
- ・授業中の様子や、給食のごみの捨て方などクラスで改善したいことに気づいた生徒が帰りの会で提案する場面が見られた。

ピア・サポート活動を継続していく中で、生徒同士のかかわりが活発になり、多様な相手と協力して活動ができるようになってきた。

これは、トレーニングの中で、配慮のスキルを意識することで、相手を大切にしたい受け手の態度を学んだことや、2人組やグループでの活動を通して多くの生徒と交流する場を設定したことにより、生徒が安心して、自分から行動できるようになったためであると考え。

まとめと今後の課題

学級にピア・サポート活動を取り入れ、トレーニング、サポートの実践、振り返りと評価を継続して行うことにより、対人関係の基礎的な技能を学び、友達のためにできることを実践し、認め合う場を設定してきた。振り返りや評価を続けていく中で、互いのサポートを促進していくためには、受け手の態度、周りをよく見て気づくこと、日頃の交流を深めること、サポートの心地よさを体験すること、よいモデルに出会うこと、そして集団の雰囲気大切であることに気づいていった。その結果、話をしっかり聞いたり、あいさつやお礼を言ったり、自分の言動に気をつけたりするなど、相手を尊重するコミュニケーションがとれる生徒が増えてきた。さらに、あいさつ、励まし、誘いなどの声かけ、困ったときの手助け、相談など、生徒同士で支え合う活動が日常で多く見られるようになってきた。

ピア・サポート活動の実践を通して、「かかわりのスキル」と「配慮のスキル」、そして、生徒個人と学級集団は、相互に作用して、向上、成長していくものであることが見えてきた。生徒同士のかかわりが活発になるにつれ、人間関係のトラブルを予防したり、トラブルに対応したりするために、配慮のスキルやかかわりのスキルを強化するような指導の工夫をしていかなければならないと考える。さらに、支えたり、支えられたりする体験がまだ少ない生徒には、援助の心地よさを味わう場面を意図的に設定するなどして、互いを尊重し、支え合う関係を深め、広げていきたい。

主な参考文献

- ・滝 充 編著 『ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編』 金子書房(2001)
- ・菱田 準子著 『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』 ほんの森出版(2002)
- ・河村 茂雄編著 『タイプ別！学級育成プログラム 中学校編』 図書文化(2001)
- ・手塚 郁江著 『好ましい人間関係を育てるカウンセリング』 学事出版(1998)
- ・八巻 寛治・吉澤克彦編著 『実践 構成的グループエンカウンター第5号 自他のよさに気づくミニエクササイズ&活用講座』 明治図書(2004)